

文化連情報

No. 492

国連「家族農業の10年」と
「小農宣言」の意義

臨床倫理メソッド

国立大学法人山形大学医学部
総合医学教育センター

中西 淑美

31 身近な人の生と死にある「時間」と倫理

はじめに

私たちが時間を意識するのは、どんな時であろうか。今回は、私事で恐縮だが、先月永眠した母の生と死を通じて、「時間」に潜む倫理について考えてみることにする。

生命と時間については、学際的に論じられてきた歴史がある^①。

現代の日本における死をめぐる文脈は、日本の近代化に伴い、産業化社会が成熟するなかで、生と死をめぐる問題に、時間という視点で二つの意味が浮上してきた。一つは、高齢期が高度医療科学技術の進歩で延長し、あたかも生命の時間が伸びたように感じることである。

つまり、避けられない死ではなく、自然な寿

命の生命時間を「選択」することができるようになったのである。二つめは、輪廻転生信仰にあるように、時間は循環するもので、その循環の時間は自然に過ぎゆくものとして捉えられてきたが、過ぎゆく時間を、技術と人の力で豊かな時間にするために停止することが「判断」できるようになったことである。それぞれの個体の死は、社会における生死の動向を判断できるまでになり、生命という自然の生物が営む時間に新たな時間を付与する視点を生命に与えたのである。

これらのことから、死の時間は、生の終焉である、暗く忌み嫌うものではなく、「選択」と「判

断」が、生命の時間には宿り、そこに、物理的な量的な時間のほかに、相対的な質的な時間があることを、我々に意識させる時代になってきたのである。

1. 2つの時間

ギリシア語では、「時」を表す言葉が、*χρόνος* (クロノス) と *καίρος* (カイロス) の2つがある^②。前者は「時間」を、後者は「時刻」を指している。

つまり、「クロノス時間」は、過去から未来へと一定速度・一定方向で機械的に流れる連続した絶対的な時間を表現し、「カイロス時間」は、一瞬や人間の主観的な時間を表すこととされ、内面的な相対的な時間を指すともいわれている。

前回、紹介した、アルフォンス・デーケンによれば、「クロノスは、いわば時計の針が刻む量的な時間です。このカイロスは、1回限りの、独自で質的な「時」を意味します。「大切な時、決定的な瞬間」のことです。」と記述している^③。

高津によると、カイロスは、ギリシア語で「機会 (チャンス)」を意味する。 *καίρος* は

神格化した男性神で、「刻む」という意味の動詞に由来しているという。この男性神は、全知全能の神ゼウスの末子で、カイロスの風貌の特徴は、頭髮の部分で、前髪は長いが後頭部が禿げた美少年として後世の彫像がある。「チャンスの神は前髪しかない」という諺は、この神に由来し、「好機を逃すな。後からはなかなか来ない」という意味として理解されている。人生には、さまざま好機が訪れ、そのカイロスの時間は、二度とこない大切な意識する時間ともいえよう。

このように、クロノスが連続的で一直線上の量的な時間であるのに対して、カイロスは奥行きをもった次元で示される質が体现される時間なのである。

人生の最期の時間には、特に、「大切な時、決定的な瞬間、質的な「時」である「カイロス」が重要な意味を持つ。

2. 倫理的対話につながる

遺志の尊重

私事で恐縮だが、昨夏、母は末期癌と宣告され、治療の甲斐なく、本人の意思で10月下旬よ

りホスピスで闘病生活となった。がん告知、A D、A C P、リビングウィル、安楽死、死の意義、生の意義、臨床倫理、等々、この連載で記述してきたことを、身近で目の当たりにし、生命と時間に通底する倫理的対話の重要性を感じた次第である。

死に直面した人たちの心理状態を、初めて研究したのが、キューブラー・ロスである。

ロスは、「死、それは成長の最終段階の時間」であり、死が近づいた時の成長のための闘いは、「生きる意味と存在意義を求める闘い」であると説いた。彼女の死へのプロセスの6段階は、①否認、②怒り、③取引、④抑うつ、⑤受容、⑥期待と希望で示され、緩和ケアの領域では、死の心理的段階を表したバイブルでもある。ロスは、このような段階を経て、死にゆく患者が死に直面する苦悩を乗り越えていくところが、人生最後の人格成長のプロセスであるという。

また、「死へのプロセス」において、前述したデーケンは、「受容」から、「期待と希望」の段階に達したら、ホスピスケアの適応になるとした。しかし、病魔に苦しんでも、母は一度も痛みを訴えないどころか、毎日、遺される子供への心配と感謝の思いで過ごし、受容から始

まっていた。看取るほうと当事者たちの心理は多様性があり、それぞれにそうした表向きの姿とは違う自死への準備教育を課しているようにも見えた。ホスピスに入所して1カ月後、自然や花を愛で、穏やかに暮らしていたためか、母の状態がすこぶるよくなって、治療介入する回数も減り、一時退院もできるくらいの状態になった。ホスピスのスタッフは全員素晴らしいケアを提供してくださり、洗礼を受けていた母は、神とスタッフと家族に感謝し、悲嘆教育や死の準備教育など忘れるほど、死の感覚が遠のいていた。

そんなある日のこと、ホスピス管理者の医師から、次のことを宣告された。

「大変調子が良くなっていて吃驚しています。ただ、このフロアは、3カ月以上は収容できないのです。昔は、何年でも滞在していたし、3年位存命した方も看取ったのですが、今は、保険体制が変わり、3カ月以内で退院していただくといけないんです」

「申し訳ありませんが、1月の下旬頃まで、お元気でしたら、別の病院か、別の施設を探していただくことになります。それで、早めに通知しておいたほうがよいかと思ひ、お呼びして

説明させていただいたということです。次の施設を探しておいてください」

大妻秀逸なケアを提供してくださるホスピスであり、この医師も含めて、看護師も、すべてのスタッフが、ケアマインドにあふれ、緩和ケアのプロフェッショナルであったが、この二度目の宣告には、生命の時間とは何かを、改めて考えさせられた。

非常に悲しく、残酷に感じた。誰も悪くないのであるが、何故か、母は3カ月以内に死亡しなければならぬように聞かされた。

確かにどんな人も、専門家は残酷なことを伝えないといけないときがある。しかし、それは残酷であるが故に、専門家として、丁寧な伝え方こそ残酷であってはならないのである。

現場の生と死を支えるスタッフには心より感謝しているが、近年の在宅医療包括ケアへの流れは、生命と時間という倫理問題にも影響を及ぼしていることを現実に感じた。

既に2018年の診療報酬改定も公表されているが、2012年度改定時から、緩和ケア病棟の評価の見直し、入院初期の緩和ケアの評価と、外来・在宅緩和ケアの充実と併せて在宅への円滑な移行を促進するため、緩和ケア病棟入

表1 2012年度の緩和ケア病棟の診療報酬評価の見直し改定⁽⁵⁾

A310 緩和ケア病棟入院料 (1日につき)		
1	緩和ケア病棟入院料1	
	イ 30日以内の期間	5,051点
	ロ 31日以上60日以内の期間	4,514点
	ハ 61日以上の期間	3,350点
2	緩和ケア病棟入院料2	
	イ 30日以内の期間	4,826点
	ロ 31日以上60日以内の期間	4,370点
	ハ 61日以上の期間	3,300点

表2 緩和ケア施設数と病床数

緩和ケア	1990年	2012年
施設数	5	278
病床数	117	5583

院基本料の評価体系を見直して遅減制が導入されることになったこと(表1)が、生と死の間を過ごす人たちへの先のような宣告につながる。この当時、2012年度平均在院日数36・5日で、2012年度の緩和ケア病床稼働率は78・3%であり、表2のように、緩和ケアを実施するホスピス病床や施設は急増していたため、在宅医療へのシフトが起きつつあった。

臨床倫理には、従来の医学的適応や四原則と

3. 生命と時間を考える

臨床倫理には、従来の医学的適応や四原則と

いった検討も重要であるが、現代ならではの医療経済的な視点からの検討が必要である。生命と時間の対話過程を考え、対話の場をもつことは、その人の善なることを探索するために、生き方、意思決定のあり方をプロセスとして捉えることになる。いずれ、倫理の5分割法として、医療メディーエーションで、情報共有と合意形成(Shared Decision Making)の相互対話の対話を図ることを何

かの形で広く提案したいが、そこに通底する重要な志向は、患者の満足度、スタッフの満足度、家族の満足度を積算していくことである。

この連載で何度も述べているように、病気には、病気の2つの観方、つまり疾病(Disease: EBM)とやま(illness: NBM)がある。そして、人の生命(いのち)には、2つの考え方があり、医学適応や身体レベルのヒトとしてのBiological life: バイオロジカルな生物学的生命(いのち)と、人としてのBiographical life: その人の人生として物語的な生命(いのち)がある。ギリシャ神話だけでなく、聖書に

も、時間の言及がある。

「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある」（旧約聖書 伝道

3:1)

人生で一番大切なものを壊されることは、生命の時間を奪われることである。

クロノスの時間とカイロスの時間という2つの時間の重要性を、そして生と死を、われわれは個人を超えて、人と自然、科学、文化、ナラティヴとして考えてみてはどうか。

そのためには、人生の大切な贈り物として逝く人と遺された人との間で、クロノスの時間とカイロスの時間が共有され、永遠の時を感じる事ができるような「場」が必要である。

自分の存在を否定するような振る舞いを意識に残らぬように、「生きていることを実感」することは、カイロスの時間を刻むだろう。また、他人との間に、創造的で感謝に満ちた関係を築くことができるように、自分と相手に心を開ける時間を共に感じあうこともカイロスの時間を紡ぐだろう。さらに、お互いに相手を尊重し、肉体の苦痛を超えて、できないことではなく、「今、できることとは何か」を考える。す

なわち、これらは、生命と時間の倫理的な検討になるであろう。

クロノスとカイロスという2つの時間の流れを共に感じ、死にゆく人ではなく、そこに生きていた証である遺志を尊重することが亡くなった後の遺族のカイロスの時間を意味あるものにする。

さて、再度私事で申し訳ない。優しい愛情深い母が数年前から希望した死に装束は、受け持ちの看護師さんの申し送りやプランがあった。

しかし、退院の際、夜勤の看護師さんがベッドの上に準備していたにもかかわらず、「今は普段着で逝かせることがその人らしさ」という価値観のスタッフ側の意向で死後の処置が施された。その後、希望の正絹の白装束でないのをおかしいなど遺族全員が思いながら、誰も言い出せず、通夜を迎えた。最期に間に合わず、無念な思いで遠路到着した夜中に、奇しくも全員でそのことに気が付き、葬儀の前に、再度本人の遺志通りに白装束で身支度を整え、茶毘に付される前に何とか間に合っ、旅立つことができた。その日は、うらうらと陽の射す暖かい日であり、子供に迷惑をかけたくないと、最期まで気遣った優しい母らしい小春日和の穏やかな召天で

あった。

4. 最善を考えるための多様性を認める

さまざまな生命の時間を全うするために、死が近づいたことを予期したとき、生きる意味と存在意義を求める闘いの日々が続く。それぞれの優秀なスタッフや価値観の違う人たちとの間で、患者の最善を考えることが、その人の最後の成長を支援することになる。

死ぬ瞬間は、カイロスの時間を捉えられる主観的な営みである。

死が無であることは当然であり、それを理解することはできる。しかし、その死を受け止められず、喪失と悲嘆を表面にしても、それらをスルーし理解できない人たちがいるのも事実である。傷ついた人へのケアとは、そういう人の悼みを、ただ聞くだけではなく、語りえぬ気持ちに思いを馳せることができるか否かではないだろうか。大きな苦しみや深い傷を心に受けたことと感謝し、これを大きな優しさへの成長に転換し、たくさんの人々のために生きたいと願うそれが母の願いであり、筆者の新たなカイロス

の時間を育むと考える。

生命と時間は、残されたクロノスの時の振幅
のなかで、カイロスの時を刻むことなのである。

参考文献

- (1) 広井良典…『生命と時間―科学・医療・文化の接点』、1994、勁草書房
- (2) 高津春繁…『ギリシア・ローマ神話辞典』(岩波オンデマンドボックス)、2018年11月、(復刻版。初版は1960年2月、岩波書店)
- (3) アルフォンス・デーケン…『よく生き よく笑い よき死と出会う』、2003年9月、新潮社
- (4) エリザベス・キューブラー・ロス(鈴木晶訳)…『続死ぬ瞬間』、1999年3月、読売新聞社
- (5) <https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/cancernavi/report/201205/525055.html>
2012診療報酬改定がん医療、がんびレポート、井上俊明、日経ヘルスケア(アクセス1月31日)

単協の広報紙誌

- 『ぼらーの花巻』(岩手県・花巻農業協同組合) 第252号 2019.2 特集 地域農業の素晴らしさを再確認 ～はなまきキッズ農業塾in東京・横浜～
- 『花むすび』(長野県・中野市農業協同組合) 第167号 2019.2 特集 遺伝子組み換え農作物をめぐる国内外の動向について
- 『みなみ』(愛知みなみ農業協同組合) 第211号 2019.1 農に生きる ずっとバラを作り続けたい
- 『JAしまねびより』(高根県農業協同組合 出雲地区本部版) Vol.34 2019.1 鳥根のいいもの再発見!! 津和野町 榊(さかき)

厚生連の広報紙誌

- 『JAとりで通信』(茨城県厚生連JAとりで総合医療センター) 第340号 2019年1月28日 平成31年新しい年を迎えて
- 『西南通信』(茨城県厚生連茨城西南医療センター病院) 第86号 2019年1月31日 骨粗鬆症 骨粗鬆症の予防と治療
- 『こんにちは 佐野厚生総合病院です』(佐野厚生連佐野厚生総合病院) Vol.7 2019新年号 肺がんとノーベル賞
- 『しあわせ号』(山梨県厚生連) vol.146 2019.冬号 体内時計を調整してつらいアレルギー症状を抑えよう
- 『厚生連ながの』(長野県厚生連) VOL.78 2019年1月 北アルプス医療センターあづみ病院 増改築工事竣工
- 『農民とともに』(長野県厚生連佐久総合病院) No.310 2019年1月31日 2018年佐久病院十大ニュース
- 『きりもぐさ』(長野県厚生連浅間南麓こもろ医療センター) 第144号 2019年1月21日 開院から1年を振り返って
- 『高原だより』(長野県厚生連富士見高原病院) 2019.1/2月号 突撃!となりの診療所&老健(第2弾) 伊那事業部
- 『柿のれん』(長野県厚生連下伊那厚生病院) 1月号 第204号 受けていますか? 大腸がん検診
- 『東濃厚生病院だより すこやか』(岐阜県厚生連東濃厚生病院) 第106号 2019年1月号 市民公開講座を開催しました
- 『こうせい』(愛知県厚生連) No.658 2019年2月号 第33回厚生連卓球大会
- 『青空』(広島県厚生連吉田総合病院) 2019年春号 vol.61 第4回市民公開講座を開催しました。
- 『深呼吸』(山口県厚生連周東総合病院) No.303 2019.2 運動すると風邪をひきやすくなるって本当?
- 『ほほえみ』(山口県厚生連長門総合病院) 194 平成31年2月 本館建替え工事の起工式を執り行いました
- 『病院だより』(山口県厚生連小郡第一総合病院) 2019/2 vol.309 外国人医師研修の受入
- 『厚生連だより大分』(大分県厚生連) No.546 2019.2 狭心症と心筋梗塞～早期発見と予防のために～

皆様の広報紙・誌を編集部までお送りください。